

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	営利法人 矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地	静岡県裾野市御宿1500		
自己評価作成日	平成24年01月17日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291400014&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地・建物共に広々としており、その中で季節を感じて過ごす事が出来る。2ユニットの場合であれば、認知の度合いによってグループを分ける事も可能だと思われるが1ユニットの為、様々な認知の状態の方が一緒に過ごすことになっている。その為、なかなか集団で行動する事は難しくなっているが、個々に対応したケアを行う努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を目の前に臨み、矢崎総業Y-CITYの中に広々としてゆったりとした施設環境が整えられ、法人の組織的なバックアップの下に、管理者・職員が一体となって利用者のケアに取り組んでいるホームである。特殊な環境の中でも地域との関わりや中学生等の職業体験受け入れ等にも取り組んでいる。利用者ケアの基本となる介護計画作成から毎月のカンファレンス・3ヶ月毎の定期的なモニタリング等その仕組みが確立されている。広大な敷地を活かした畑作りや日常的に散歩や戸外へ出る活動が窺える。周辺を含めた施設環境を活かして利用者が穏やかに暮らしていける支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様それぞれの豊かな人生生活実現に貢献する。」という理念を念頭に置き業務にあたっている。	施設理念実現に向け、利用者一人ひとりのペースを第一に、法人の組織的なバックアップの下、管理者・職員が一体となって利用者ケアに取り組んでいる。	更なる取り組みとして、自己評価等を活用し、理念実現に向けた具体的な課題や目標等を設定しホーム全体でその実践に向けた活動が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢崎自治区に加入し、清掃活動・お互いの祭りなどに相互に参加している。矢崎保育園とも年間の行事に相互に参加したり、園児がいつでも気軽に立ち寄れるよう遊具を設置している。	Y-CITYという環境の中で地域とのかかわりに取り組み、地域やホームでのお祭り交流、紙ふうせん便りの配布、保育園児とのふれあい、中学生の職業体験受け入れ等に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の職業体験の場として受け入れをしている。 2級ヘルパー実習の場として協力している。 22年度・23年度の認知症実践者リーダー研修の実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期(2ヶ月に1度)開催し利用者家族・区長・民生委員・包括支援センターの代表等と話し合い、サービス向上に生かしている。	地域や行政の関係者、家族、民生委員等の参画の下、2ヶ月毎に定期開催され防災訓練状況、福祉体験学習、家族介護教室等の活動が話し合われホーム運営に有効活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のふれあい健康祭りに毎年出店している	行政窓口とは日常の報告・相談等で協力関係を築き、また、地域調整会議等を通じての関係作りやふれあい健康祭りへの出展等にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行っている。 H24.2.2に身体拘束廃止フォーラムに職員が参加する予定。	身体拘束「0」宣言や契約書等にも明記され、職員の外部研修や職員全体会議等で身体のみならず、日々の会話や対応での拘束等の話し合いを通し、ホーム全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1月のカンファレンスにおいて新任職員を交えて内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修に行ったスタッフの研修報告の際、学んできた成年後見制度についての報告と内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては申し込みから契約に至るまでの間必要であれば複数回面談を行い、十分に説明し、御理解・御納得いただける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が気軽に職員に話しかけられるように顔写真を使いスタッフ紹介をしている。意見箱の設置、運営推進会議へのご家族の参加等により意見・要望を出していただいている。	来訪時の面談を中心に家族とのコミュニケーションを図り、運営推進会議での話し合いや、紙ふうせん便り、各種イベント等での交流等を通じて意見・要望を聞き出す取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例カンファレンスにおいて出た意見や随時出ている要望などを、部門管理者は部門長会議に提出している。	毎月のカンファレンスでの意見交換、日々の業務やミーティング、申し送り等で話し合わせホーム運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給時に評価を行い、給与の見直しを行っている。資格取得についても給与に反映し、向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加できるよう案内を行い、業務として参加している。毎年1名以上のスタッフが認知症実践者研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の家族介護教室(老健主宰)にパネラーとして参加、在宅介護の会への参加などを通じて同業者と交流している。また認知症実践者リーダー研修の受け入れにより、近隣市町村の同業者と情報交換を行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉からの訴えばかりではなく、言語化されない訴えをくみ取れるよう良く観察し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて何度か面談する機会をつくり、安心して相談していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるかどうか等検討し、すぐこちらでのサービスが提供出来ない場合は、他のサービス利用を検討頂く様お話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている力を把握して職員と水平の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明にて、ご家族の協力が必要である事をご理解いただき、受診や外出の協力を仰いでいる。また面会にも来ていただきたいということをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会を受け入れており、ご兄弟・ご親戚・お友達・ご近所の方など気軽に寄っていただいている。またご家族に協力いただき、法事に出席されたりもしている。	利用者馴染みの友人や近隣の人達、兄弟・親戚等の来訪を促し、また、家族の協力を得て法事や墓参り等の機会を作る支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がスムーズに関われるように、職員は間に入って意志を伝達する等サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に取り組んでいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接伺える場合は希望を伺っている。困難な場合は日頃の様子を観察させていただき、非言語の訴えを導き出し職員全員で考え検討している。	利用者との日々の交流の中で、以前の生活歴等を踏まえながら、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、発している言葉や、表情より推し量り、それとなく確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしについてご家族に記入していただくシートを作り活用している。ご本人に伺える場合は伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の担当職員を決めると共に、毎日の過ごし方、心身状態を観察、記録しカンファレンスを通して総合的に把握出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・訴え・ご家族・担当職員それぞれの意見を踏まえて、計画作成担当者が作成している。	日々のかかわりの中で、「生活史情報用紙」や「ご利用者様現況把握表」をその都度、スタッフ全員で作成し、介護計画に反映している。毎月3名づつ評価を実施し、3ヶ月で全員の評価、モニタリングが行われている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、介護記録・申し送りノートに記載し職員は常に目を通し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一般ボランティアに加え、社内ボランティア(習字・うどん作りなど)の協力いただき、ご利用者様の生活の充実のお手伝いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医と連携をとっている。定期的な往診・受診をご本人とご家族が納得の上行っている。	かかりつけ医の選択は、利用者や家族の希望に合わせており、また、事業所の協力医の医療も受診できる。医師の往診や電話での相談も定期的実施されており、適切な医療が受診可能な支援体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として看護師が1名おり、健康管理・主治医との連携・急変時の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院の相談員や医療連携室と連絡をとり合い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診に来て頂いている主治医とは定期的な話をしている。事業所で出来る事をご家族には何度も説明している。各々の主治医の対応についても把握に努め、重度化した場合、ご本人が一番快適に過せる環境を作れるよう努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、スタッフが連携を取り、事業所が対応し得る最大のケアについて、説明を実施しながらの支援に取り組んでいる。緊急時のマニュアルも整備されている。	将来の動向として、ターミナルケアを望まれるケースが増える傾向を考え、重度化に伴うホームとしての基本的な指針、医療機関との連携体制、職員の対応マニュアル、家族との「意志確認書」等の整備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命(AED)の講習を全職員が受けられる様定期的に講習会を行っており、順次参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間については防災訓練にて対応を確認している。夜間についてもカンファレンスの際に定期的に対応を確認している。矢崎自治区・警備会社とも協力体制を築いている。	火災時の避難訓練及び地震時の避難訓練を年1回実施している。その他、自治会の総合防災訓練にも参加している。また、常駐している警備会社との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は人生の先輩である事を念頭に置き支援を行なうよう努めている。言葉遣いについても十分に注意し、記録に使う用語についても差別につながるものは使用していない。	入浴や排泄の際でも、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。自己決定し易い言葉かけをするように心がけ、一人ひとりの尊厳を守るように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表した思いはもちろんの事、非言語的な思いをくみ取れるよう、観察しながら日々支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝など大まかな日課以外は、ひとり一人の意向とペースを尊重し、自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、同敷地内の理髪店・美容院を利用している。服装についてはお好みのものをご家族に用意していただき、出来る限り自由に選んでいただいている。介助が必要な方の場合には最小限のお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みについては、ご本人やご家族から聞き取りを行い対応している。畑で取れた野菜(大根・さつまいもなど)を下ごしらえ、調理することで食べる楽しみが増えている。お皿拭きを役目として取り組んでくださっている。	月～土曜日は給食が提供されているため、日曜日のみ献立を利用者と相談しながら決めている。敷地内で収穫した野菜等を利用し、メニューに加えている。後片付けまで一緒に参加し、職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、足りない方に対しては、その方にあった摂取法にて不足の無い様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方・義歯の方それぞれ毎食後口腔ケアを行っている。3名の方に対しては歯科衛生士の訪問診療(1回/週)を受けており、必要に応じて歯科医師に訪問診療もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄に向けて誘導・声かけをしている。	排泄チェック表を活用し、利用者のパターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるよう努めている。また、各人に合わせた排泄用品を選択し、排泄の自立に向けた支援が、展開されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動でコントロール不可の場合、主治医上申にて内服処方していただく。便秘薬が不向きな方には座薬で対応する場合もある。排泄チェック表により個々の排泄期間を把握するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土はいつでも入浴して頂ける様用意をし、一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。	日曜日以外は、いつでも入浴が可能で、利用者の希望や時間に沿った入浴が楽しめている。ほとんどの利用者が、1週間に6回入浴し、スタッフの介助、見守りの支援体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から就寝までの1日の生活リズムを画的にせず、一人ひとりの生活パターンに応じて、休息・睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにまとめいつでも見れる様にしている。血圧の薬については、血圧の数値を必ずチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からこれまでの趣味・嗜好を把握する努力を行っている。施設内にある畑やカラオケ室などを利用して楽しみごとや、気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望にそって戸外に出ることはなかなか難しいが、2～3名ずつの少人数で夕食外出を行い普段とは違った食事を楽しんでいる。	ショッピングセンターでの買い物や散歩等、利用者の希望に沿って外出できるよう、支援に努めている。普段は行けないような場所は、季節のイベント時に実施し、数人ずつに分けて、外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員の方が行うことは難しいが、外出の際、ご本人の預り金にて、好きなものを選んでいただき購入するお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話連絡をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様を混乱させる事が無い様、配慮している。また皆さんの作った作品を掲示したり、花を活けたりすることで居心地良く過せるよう工夫している。	共用部を含め、全ての空調が中央一括管理方式で、床暖房も設置され、居心地良い空間となっている。中央の吹き抜け部は樹木で緑化され、季節感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちにソファや長いすを置き、好きな場所で休んで頂ける様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具を持って来て頂くなど、ご家族にも協力いただいている。	ベッドは利用者と家族が相談して、用意している。写真や思い出の品が持ち込まれ、利用者がその人らしく、また居心地良く過ごせるように、工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行していただき筋力の維持がはかれる様工夫している。また居室の目印となる暖簾・トイレの張り紙などにより間違える事の無い様工夫している。		